

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
 高知県地域福祉部障害保健支援課内
 高知県精神保健福祉協会
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
 FAX：088(823)9260
 E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
 発行人 明神 和弘 編集人 谷 晃

第270号

第58回高知県精神保健福祉大会

地域で支える子どもの育ち ～高知家の発達障害支援の課題～

講演「発達障害児への地域子育て支援」

NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長

前三重県立小児(こども)心療センター あすなろ学園園長 西田寿美

<子育ての隘路と人格発達論>

子育てには親にも子にも隘路があります。子どもは生まれる家庭や環境を選ぶことが出来ないし、家庭は葛藤のつぼみであり、その家庭も地域や時代に影響されます。

子どもは、育ちに関わる大人との愛着関係によって、愛する人を喜ばす喜びや悲しませる悲しみを知り罪悪感や道徳観が芽生え、肯定的な自己意識が育まれ、愛する人の支援を受け入れ欲求不安やストレスに耐え、忍耐力や目的に向けて努力する能力を培っていくのです。

心理学者のエリクソンの人格発達論では人は死ぬまで人格が発達するとされています。2歳までの乳児期には「基本的信頼感」が獲得され、赤ちゃんが望んだように愛されることが大切で、母親の応答の規則正しさと予測可能性が乳児の世界の最初の秩序となるとしています。4歳までの幼児期には「自律性」が、7歳までの児童期には「自発性」が、12歳までの学童期には「勤勉性」、18歳までの青年



大会冒頭、高知県精神保健福祉協会会長表彰において
 受賞者を代表し挨拶する猪谷健氏

期には「自我同一性」を獲得する、とします。大人になり精神的自立を達成するには健康な自我同一性の獲得が大切ですが、そのためには、生れてよかったと体験できる乳児期を経て、我慢したら良いことがある体験によって自己コントロール力を身につけ、大人の支えのもと自分で試してみたいという気持ちが育ち、周囲からの期待に応じて実行しやり遂げる満足感を積み重ねることが大切です。そういう基本的な育ち環境を経て、外から与えられた自分

目次

第58回高知県精神保健福祉大会講演 1
 第58回高知県精神保健福祉大会シンポジウム 4
 第3回高知県精神保健福祉バリアフリーフェスティバル..... 4
 第23回ほっとソフトバレーボール大会の結果について 5
 高知県精神科事務長会視察研修..... 6

高知県精神保健福祉ボランティア連絡協議会学習会 7
 平成30年度 第3回リフレッシュセミナー..... 7
 第22回文化交流会 8
 ご芳志への御礼 8

の姿と主体的な自分を統合させ社会的な存在としての自分を実感できるようになり、自分はこれでやっていこうと自立への一歩が踏み出せるようになるのです。子どもの育ち支援には「我慢したらいいことがある」体験を大人との関係の中で実体験させることがまずは基本となります。

<発達障害スペクトラムの早期発見・早期療育>

発達障害スペクトラムには、広汎性発達障害と学習障害、知的障害、ADHDが含まれます。自閉症の治療法がまだなかった1964年、十亀史郎先生によってあすなる学園に日本で最初の自閉症病棟が開設されました。その取り組みは1966年8月26日、NHK現代の映像「孤独なたたかい自閉症の記録」として全国放映され、自閉症児を育てる親の希望となり自閉症治療施設設置への全国的波及効果の第一歩となりました。十亀先生の治療理念は「いろいろな障害をもって生まれても人として当たり前の生活を地域で送れること」でした。

早期発見・早期療育に取り組むあすなる学園では、1997年から1999年にかけて厚生労働科学研究として「1歳半健診におけるチェックリストの開発と活用」を行いました。その結果、早期発見は可能となりましたが外来予約が追い付かず、早期療育は実現が困難でした。2000年頃から、軽度発達障害児が話題となり、あすなる学園でも外来初診の知的障害を伴う自閉症児と正常知能自閉症の割合が2004年には逆転し、正常知能群が増加し、現在は2:1となっています。2002年、文部省は「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」を行い6.3%と発表、2012年の再調査では6.5%に増加し、小学校1年生では9.8%と報告しました。この結果は保育園・幼稚園時代の早期対応の必要性を示唆するものでした。こういう時代の流れのなかで、あすなる学園は地域子育て支援の重要性を再認識し専門機関の役割を見直すことになりました。



講師：西田寿美氏

<5歳児発達障害チェックリスト三重県モデル CLM (Check List in Mie)>

軽度発達障害の子どもは、乳幼児健診だけでは発見困難な子どもたちで、通っている保育園や幼稚園で気づくことが多く、親も障害と認めることに抵抗があり、専門家も明確な障害があると判断できないケースも多く、対応の遅れによっては二次障害が発現する子どもたちです。さらに診断されても保育園や幼稚園、学校などに支援方法が整備されていない現状です。そして保護者が気づいても親子をサポートする仕組みがなく、行政の縦割り構造によりケースの管理がされにくい現状があります。早期診断が可能で親子サポートする仕組みの必要性から、5歳児の三重県モデルの発達チェックリストを作成することになりました。あすなる学園で診断された5歳児と保育所幼稚園に通園している5歳児の具体的な行動のチェック項目の傾向を把握することが必要になりました。結果は診断あり群の上位チェック項目の、「長い話や早く話されると理解ができない」と「集団場面では聞き取れない」、「喋ってはいけない場所でもよく喋る」が、診断なし群の上位ランキングと一緒でした。このことから集団指導場面において有効な対応が必要なこと、集団場面だからこそ発達障害特性を早期発見できるのではないかと考えるようになり、広義の発達障害の特徴と巡回指導等で得た情報を組み合わせた、こ

とばと社会性、運動、行動、その他の57項目と解説で構成したチェックリストが完成しました。

しかし、ねらいは発達障害の診断ではなく、保育士や幼稚園教諭が（学校の先生も含めて）個々の子どもの有する特性に早期に気づき「幼児期の個別の指導計画」を立案・実施・評価が行える力量を養成することを目標としました。

＜発達障害の支援システムとしての人材育成＞

発達障害児の支援システムは、まだ少ない専門家のみにゆだねると診断にも支援にも時間がかかり早期対応が困難となります。子育てには、身近な敷居の低いところで子どもの特性に応じた専門の総合支援が途切れなく続くような地域に密着したシステムが必要であると考えようになりました。

三重県が取り組んであすなろ学園がサポートしているのは、早期発見から成長し地域で生きることまで橋渡しする「途切れない支援システム」で、地域で中核になる子ども発達総合支援室を担う人材（保育士・幼稚園教諭・保健師・教師）をあすなろ学園に1年間派遣し地域の子育て支援専門家育成をすることです。児童精神科入院治療や外来療育、地域連携、CLMなどを実習し、地域の子育て専門家（目利

き腕利き)になってもらうことです。

＜結び＞

子育て支援を考えると時思うのは、親に代わることはできないが、他人だからこそできることがある、現在と未来は変えることができるが、過去の意味は変えることができるということです。過去の親子関係のひずみも他人が入ることによってその意味を変えることができます。そして、人は気が付いて変わりたいと思った時に変わることができます。暴力ばかり振るっていたアスペルガー障害の子が、「他人を変えることはできないが、自分は変わることができる」と自覚したとき大きく成長しました。子どもたちが成長していくには時間が必要です。そして寄り添い見守る大人の存在が大切です。専門援助は当事者の生活を中心としたものであること、たくさんの人との出会いと伝え合いによって子どもは育っていくと考えます。子どもには、苦手な人を避け困って相談したら楽になったという実体験を積み重ねさせることが大切です。そういう体験によって、発達障害という特性は変わらなくても生きていくことのストレスが減り、自分の特性を生かす希望が見つかるのではないのでしょうか。



第58回高知県精神保健福祉大会
地域で支える子ども育ち

シンポジウム
「高知県の現状と課題」

シンポジスト:

高知県立療育福祉センター副センター長
高知ギルバーク発達神経精神医学センター所長
北添 紀子

高知市こども未来部子ども育成課子ども発達支援担当係長
藤宗美千子

香南市健康対策課保健師
岡崎 直子



まずそれぞれのシンポジストから高知県全体と高知市、香南市での取り組みについて説明があった。北添氏からは高知県立療育福祉センター初診者の、受診前のサポートについて報告された。高知県を3分割し、調査したところ、東部、西部では約3分の2が受診前に地域でのフォローアップがあり、中央部では、過半数がフォローアップなしだった。高知県全体でも精神科で児童を専門に診察する医師あるいは小児科で発達障害については診察できる医師は限られている。地域での取り組みについてシンポジストの発表を受けて岡田実行委員長は高知県全体の出生数の半分が高知市に集中し、年間2,600人を超えている。地域でのフォローに適したサイズとしては香南市の33,000人位が条件として

は恵まれているのではと整理した。

助言者の西田氏は、地域子育ての支援体制が重要で、特に乳幼児期から小学校低学年くらいまでの援助が充実していれば早期対応ができ、子どもの育ちのゆがみを予防でき、家族や子どもの幸せになる。地域の子育て支援に対する人材育成が大切で、医療・保健・教育・福祉の対等な連携体制作りは行政の理解がないと実現しない。三重県の市町人材育成への取り組みによって、あすなるも地域支援を直接支援から間接支援に変え、初診待機が半年以上になっても、その間地域での支援に任せ安心できるようになってきている。早期の支援が地域でできるようになれば、専門機関の役割がもっと整理でき、地域子育て支援体制が充実すると助言した。



シンポジウム助言者

平成30年度
第3回高知県精神保健福祉
バリアフリーフェスティバル

平成30年10月10日(水)に県民体育館において、第3回バリアフリーフェスティバルが開催されました。

13施設から約170名の方が参加されました。

皆さんの頑張りの結果、最終種目が終了した時点でなんと紅白ともに245点の同点となり、勝敗は、職員対抗リレーの結果となりました。

参加者の応援する中、職員リレーを制したのは、紅組で、今回は、紅組の優勝となりました。

皆さん、お疲れさまでした。



借り物競争



長寿の紐



足つぼマット



足つぼマットのアップ



職員
対抗リレー

245対245、同点!



閉会式

精神保健ボランティア ほっとはあと 第23回ほっとソフトバレーボール大会

平成31年3月7日(木)
高知県立障害者福祉スポーツセンター (高知市春野)

Aリーグ(1コート)

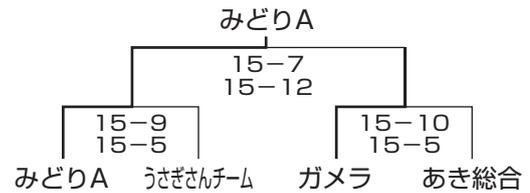
チーム名	所属	南国病院デイケア	あき総合病院	うさぎさんチーム	勝 敗	得失点	順 位
南国病院デイケア	南国病院		0-2	0-2	0-2	-20	3
あき総合病院	あき総合病院	2-0		1-2	1-1	+7	2
うさぎさんチーム	土佐病院	2-0	2-1		2-0	+13	1

Bリーグ(2コート)

チーム名	所属	ラフアンドハッピー	デイケアワクワク	みどりA	勝 敗	得失点	順 位
ラフアンドハッピー	デイケアあいこう		0-2	0-2	0-2	-22	3
デイケアワクワク	海辺の杜ホスピタル	2-0		1-2	1-1	+3	2
みどりA	みどり作業所	2-0	2-1		2-0	+19	1

Cリーグ(3コート)

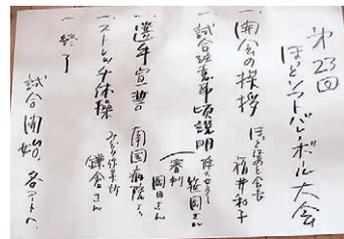
チーム名	所属	みどりB	ガメラ	サボかみ	勝 敗	得失点	順 位
みどりB	みどり作業所		0-2	2-0	1-1	+3	2
ガメラ	土佐病院	2-0		2-0	2-0	+22	1
サボかみ	聴覚センター跡地	0-2	0-2		0-2	-25	3



***** 結果報告 *****

- 決勝トーナメント結果
- 第1位 みどり作業所Aチーム
- 第2位 ガメラ(土佐病院)
- 第3位 あき総合病院
うさぎさん(土佐病院)

- 個人賞
- ハッスル賞 南国病院
- ディケアあいこうの方
- アタック賞 海辺の杜ホスピタルの方
- レシーブ賞 みどり作業所の方



高知県精神科事務長会 視察研修

高知県精神科病院事務長会(井上英俊会長)は、平成31年2月14日から15日に平成30年度視察研修として徳島県の2病院を訪問した。

14日に訪れた社会医療法人杜のホスピタル(阿南市)では、細木ユニティ病院に在職した高坂要一郎理事長と森木信生副院長(事務担当)と再会することが出来ました。



中央：高坂理事長、右：森木副院長

徳島県南部地方は10万人規模の診療圏で、杜のホスピタルでは病院建物の改築に伴い名称変更も行い、診療内容も精神科救急医療に特化し「地域の人



吹き抜けになり開放感のある
エントランス

が困ったときに断らない」ことをこころがけ、外来もなるべく地域のかかりつけ医にお返しするので、外来診療は午前中のみと徹底しています。

南海トラフ地震のときには津波が2メートルくらいの高さで到来するので、病院の患者さんに関わ

る施設は2階からと
なっています。病棟には同じフロアで閉鎖部分と開放部分の間仕切りを変更できる工夫があり、ここでも患者さん第一の姿勢がうかがえます。



地域に公開されたホール



見晴らしの良いホール外

ホスピタルの原義は「病院」ではなくて「休養とエンターテインメントの場」という高坂理事長のお考えから、病棟5階には地域にも開放されたホールとカフェスペースが用意されています。地域に応える精神科医療のあり方と感じました。(文責:谷晃)

ボランティア 連絡協議会学習会

高知県精神保健福祉ボランティア協議会主催の、30年度精神保健福祉ボランティア学習会（第2回）が、平成31年2月23日に開催された。



こうち男女共同参画センターソーレで開かれた第一部では、高知県精神障害者家族会連合会副会長の松尾美絵氏から、仲間がいるから「べてる」で生きていく、をテーマに、北海道浦河町の社会福祉法人浦河べてるの家を見学した内容を情報として提供し、講演後出席者全員で意見や情報の交換を行った。

「べてるの家」は今ではたくさんのサービスの集合体となっているが、既存の精神科病院が閉鎖になったことから、地域での支援の取り組みが始まった。住むところ、働くところ、活動する場がひろまり、「幻想&妄想大会」や「当事者研究」は有名な取り組みになっている。精神障害者を地域で包括的にケアするには、住むところ、活動する場、支援者そして地域社会の理解が必要と言われる。浦河町ではこれまでの取組によって精神障害者が「特性のある人」として地域に受け入れられていることが分かる。

第2部は場所をカラオケ店に移し「心ゆくまで歌

おう語ろう」交流会として、世代を超えた親睦を深めた。1部2部ともに15名ほどの出席だった。



平成30年度 第3回リフレッシュセミナー

「その人らしさ、 思いや夢を知って支えよう ーストレングス・マッピングシート を活用して楽しく対話するー」

日時:11月13日(火)14:00～16:00

場所:ソーレ

社会医療法人近森会近森病院総合心療センター
副看護部長 武田 直子 氏



第22回 文化交流会

2019年2月27日に県民文化ホール(グリーンホール)において、第22回文化交流会が開催されました。

創作部門には5施設、のど自慢部門には9組の方が出場されました。

各施設の皆さんが、趣向をこらした発表を行いました。

結果	のど自慢部門
創作部門	チャンピオン:芸西病院の方
金賞:愛幸病院	特別賞:海辺の杜ホスピタルの方
銀賞:高知鏡川病院	グッドデザイン賞:高知鏡川病院



次回も皆さんの出場・参加を楽しみにしています。

ご芳志への御礼

本年度の協会活動へのご寄付ありがとうございました。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| いずみの病院 | いとうクリニック |
| 上町病院 | 三宮心療クリニック |
| だいいちりハビリテーション病院 | はりまや橋診療所 |
| 町田病院 | 渭南病院 |
| 井坂 公 | 宇賀 茂敏 |
| 大杉中央病院 | 葛岡 哲男 |
| 竹本病院 | 田野病院 |
| 津田クリニック | 社会福祉法人ふるさと会 |
| イカリ消毒(株) | (有)金高堂書店 |
| (株)高知ガス | 高知ビル美装(有) |
| (株)高知タマモ | 弘文印刷(株) |
| (株)コーリン商会 | (有)佐藤商店 |
| (有)三和水産 | 三誠産業(株) |
| 四国医療サービス(株) | 四国管財(株) |
| 四国電話工業(株) | 四国メディカルトリートメントセンター |
| 関(株) | (株)太陽 |
| 谷本 邦治郎 | (有)笛 |
| (有)フジムラ | エームサービス(株) |
| 大塚製薬(株) | 大日本住友製薬(株) |
| (株)ツムラ | 中澤氏家薬業(株) |
| ファイザー(株) | Meiji Seika ファルマ(株) |
| ヤンセンファーマ(株) | |

(敬称略:順不同)



命のために、
できること
すべてを。

 大日本住友製薬
Innovation today, healthier tomorrows